

．おわりに 途上国社会運動研究の課題

前節で述べたように、非西欧社会の社会運動を研究することは、西欧社会を前提に作られてきた社会運動の理論に対する新たな貢献につながる可能性をもっている。とりわけ途上国社会は、経済、政治、社会の各面で西欧社会との違いが大きい。そして途上国においても様々な社会運動が起きているから、研究の素材には事欠かないのである。

ところが途上国の社会運動を対象とした研究は、もっぱら社会運動の発生を途上国のマクロの経済的、政治的構造から直接導く形をとっている。例えば新しい社会運動論の創始者でもあるトゥレーヌは、途上国の社会運動を階級闘争、権力奪取運動と規定する（梶田，1985）。先述のようにトゥレーヌは先進国の社会運動を脱産業社会の社会改良運動とみなしたのだから、それとの対照は際だっている。トゥレーヌによると、途上国は先進国によるコントロールを受け、周辺資本主義の役割を負わされている。国内では民族に分裂していて、国家官僚の権力が大きい。こうした状況で社会運動は、社会変革を妨げている従属、低開発状態に対する行動として表れるという。こうして途上国の社会運動は、狭義の「階級闘争」、外部に対する民族闘争、近代化や発展との関わりを持った闘争、となる（トゥレーヌ，1989）。このようにトゥレーヌは、途上国を産業資本主義段階あるいは世界資本主義システムにおける従属国と規定して、そうしたマクロの社会経済的特徴から社会運動のあり方を論じている。世界資本主義システム論のアミンも第三世界において新しい社会運動の意義を否定し、周辺部では、人民階級は国家から何も期待できないのであるから、「社会革命」という言葉はまだ有効である、と言い切っている（Amin, 1993）。

一方では、より社会改良的社会運動の可能性を主張する論者もいる。ハインズ（Haynes, 1997）は途上国における社会運動の担い手として action group に注目する。ハインズによれば、途上国では貧困化、不平等の進行などと相まって、権力の中央集中が進み、民主化への要求が高まる。それによってできた政治環境が、action group にスペースを与え、action group の活動が活発化する。言い換えると、経済的なパフォーマンスが良くないこと及び民主的なスペースの存在が、第3世界において action group の基礎を提供しているというのである。

ハインズはアジア、アフリカ、ラ米と地域を分けて、環境運動、民族運動、女性の運動などイシューごとに社会運動の状況を述べている。地域と分野を広くカバーしているが、記述されるのはいくつかの NGO の活動事例のみである。また、action group 発生の条件を単にマクロの経済環境と政治環境からのみ説明している。実際の生成過程・メカニズムと環境要因をつなぐ論理は見られない。あたかも一定の環境があれば自然と運動が起こるかのようである。

ハインズ以外でも、Oommen(1997)、Wignaraja(1993)、Mamdani 他(1993)などは、途上国の社会運動を産業資本主義段階の革命や従属論的な規定によるのではなく、個々の途上国社会がもつ固有性や実態に即した説明が必要とする。しかし彼らも固有文化や実態を

どう分析枠組みに入れるのかを示していない。

このようにみると、McAdam 等(1997)が嘆いたことも頷ける。

紛争的政治 (contentious politics) の比較研究における理論は、西欧社会における改革運動から導かれたものである。西欧世界以外の研究はしばしば社会運動理論の概念や分析装置を借りてくるが、真の意味で西欧社会の分析と対話をしてはいえない。しばしばそれは文化的な特異性で片づけられてしまう。世界の違ったところで起きる現象を統一的に説明するような変数にする努力がなされない。その結果、西欧民主社会と第三世界での運動研究者はそれぞれ異なった語彙で語り、特殊論に陥ったり、世界の大きな部分を除いたデータを使いながら広く理論化ができていると思いきりしてしまふ。

以上のように、途上国における社会運動研究は、既存理論でいえば古典派 (特にその構造論) の段階にとどまっており、そうした構造的特色を実際の集団行為にまで結びつける諸要素に関する分析が欠落している。

したがって、途上国における社会運動研究には以下のような課題が立ちうるであろう。ひとつには、大衆の存在状況と制度変革行為を選択する意識との連関を明らかにすることである。途上国に関する既存研究は、「貧困故に立ち上がる」といった単純な図式のものであった。しかし貧困という存在状況が制度変革的行為を忌避する、あるいはそのような行為を想起すらできないという意識状況を規定している可能性もある。貧困や抑圧というような大まかな存在状況の規定だけでは、制度変革を志向する主体の意志決定を説明できないのである。こうした論理の飛躍を克服するには、存在状況 (客観的、主体的条件) のより詳しい把握、制度変革意識を導いた外部からのインパクトを明らかにしなくてはならない。それによって誰が、なぜ、変革を志向したのかが明らかになるだろう。

第2に、集合行為が生成する過程を明らかにすることである。自動的に制度変革意識が生まれるのではないのと同様に、集合行為の形成も自動的に進まない。人々のどのような組織経験、どのような外部からの働きかけ、組織化の機会が、実際の組織化を可能にしたのだろうか。

第3に、集合行為がどのようにして権力者の意志決定に影響力を及ぼすのかを明らかにすることである。権力者側の統治の構造、メカニズムを明らかにしなければ、社会運動の側がとる戦略の意味も理解できない。

以上のように、社会運動が発生し、それが何らかの制度変革に結びつくまでの3つの段階で、実態をふまえた分析が必要である。その際、途上国という場を対象とすることによるいくつかの留意点がある。

ひとつは制度変革行為に立ち上がるのは、必ずしも一般大衆ではないかもしれない、ということである。構造が規定する貧困その他の問題を抱える人々ではなく、その代弁者 (例えば NGO) が立ち上がる場合が往々にしてある。その場合、立ち上がる人々の意識を規定する構造と制度変革の受益者の意識を規定する構造とは同じではない。第2に、社会運動

の担い手はきわめて資源に乏しい場合が多い。制度変革の受益者は通常きわめて貧困であり、代弁者も国内から資源を調達できない場合が多い。いきおい外国ドナーが資源提供者として重要になるが、大量の動員を可能にするほどの資源が得られることはほとんどないし、政治的イシューに関わる資源提供には消極的なドナーも多い。3つ目は、コミュニティなどの社会的紐帯は、制度変革的動員の道具になる場合もあるが、逆にそれを抑制する要因にもなるということである。同じ社会組織の中に、異なった（あるいは利害の対立する）階層が含まれることはしばしばある。非西欧社会における社会関係資本は、西欧社会で想定されているような目的に応じて自由に使える道具制度ではない。4つ目として、社会運動の担い手が大衆の代理人である場合、通常彼らは階層的にはエリートに属することを指摘したい。NGOの幹部は大卒の場合が多く、学生時代からの知己はむしろ権力側に多くいる。そうしたネットワークを社会運動に動員する場合がしばしばある。また運動家はその知的能力を用いて影響力を及ぼすことに長けている。大量の大衆動員が容易ではない分、こうしたエリートとしての能力や条件を用いた社会運動が起きる。最後に、政治機会の構造が先進国のそれと大きく異なっている場合がしばしばある点にも注意が必要である。極端な場合は、民主的政治制度という対象制度を求めるのに、もちいることのできる道具制度がきわめて限られている場合もある。

こうした特色をおさえながら途上国の社会運動が実証的に研究されていけば、制度論、社会運動理論への理論的貢献にもつながるであろう。本稿で見てきたように、制度論は権力無き人々の制度変革を理論に取り込めておらず、社会運動論は制度に規定された人々の変革行動を意識的に分析してこなかったからである。

引用文献

- Amin, Samir (1993). "Social movements at the periphery," in Ponna Wignaraja (ed.), *New Social Movements in the South: Empowering the People*. London and New Jersey: Zed Books, pp.76-100.
- Blumer, Herbert (1969), "Collective behavior," in Lee, Alfred McClung (ed.), *Principles of Sociology*. New York : Barnes & Noble.
- Brady, Henry E., Sidney Verba, and Kay Lehman Schlozman (1995). "Beyond SES: A resource model of political participation," *American Political Science Review*, Vol.89, No.2: 271-294.
- Bromley, Daniel W. (1989). *Economic Interests and Institutions: The Conceptual Foundations of Public Policy*. New York: Basil Blackwell.
- Campbell, John L. (1997). "Mechanisms of evolutionary change in economic governance: Interaction, interpretation and bricolage," in Lars Magnusson and Jan Ottoson (eds.), *Evolutionary Economics and Path Dependence*. Cheltenham and

- Brookfield: Edward Elgar Publishing, pp.10-32.
- Canel, Eduardo (1997). "New Social Movements theory and resource mobilization theory: The need for integration," in Michael Kaufman and Haroldo Dilla Alfonso (eds.), *Community Power and Grassroots Democracy: The Transformation of Social Life*. London and New Jersey: Zed Books and Ottawa: International Development Research Centre, pp.189-221.
- Clark, William Robert (1998), "Agents and structures: Two views of preferences, two views of institutions," *International Studies Quarterly*, 42: 245-270.
- Coase, Ronald H. (1937). "On the nature of the firm," *Economica*, 4: 386-405.
- Costain, Anne N. (1992). *Inviting Women's Rebellion : A Political Process Interpretation of the Women's Movement*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Crossley, Nick (2002). *Making Sense of Social Movements*. Buckingham & Philadelphia: Open University Press.
- della Porta, Donatella and Mario Diani (1999). *Social Movements: An Introduction*. Oxford: Blackwell Publishers.
- Diani, Mario (1992). "The concept of social movement," *The Sociological Review*, Vol.40, 1992: 1-25.
- Chong, Dennis (1991). *Collective Action and the Civil Rights Movement*. Chicago and London: The University of Chicago Press.
- DiMaggio, Paul (1988). "Interest and agency in institutional theory," in Lynne G. Zucker (ed.), *Institutional Patterns and Organizations: Culture and Environment*. Cambridge, Mass.: Ballinger Publishing, pp. 3-21.
- DiMaggio, Paul J. & Walter W. Powell (1991), "Introduction," in Walter W. Powell & Paul J. DiMaggio (eds.), *The New Institutionalism in Organizational Analysis*. Chicago and London: The University of Chicago Press, pp. 1-38.
- Eisinger, Peter K. (1973). "The conditions of protest behavior in American cities," *The American Political Science Review*. vol.67, issue 1: 11-28.
- Eyerman & Jamison(1991)
- Fligstein, Neil (1997). "Social skill and institutional theory," *American Behavioral Scientist*. vol.40, no.4: 397-405.
- Friedland, Roger & Robert R. Alford (1991), "Bringing society back in: Symbols, practice, and institutional contradictions," in Walter W. Powell & Paul J. DiMaggio (eds.), *The New Institutionalism in Organizational Analysis*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 1991, pp. 232-263.
- Giddens, Anthony (1979). *Central Problem in Social Theory: Action, structure and contradiction in social analysis*. Berkeley and Los Angeles: University of

- California Press (Reprinted in 1994).
- (1984), *The Constitution of Society: Outline of the Theory of Structuration*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- Gurr, Tedd (1969). *Why Men Rebel*. Princeton: Princeton University Press.
- 長谷川公一 (1985). 「社会運動の政治社会学 - 資源動員論の意義と課題 - 」、『思想』、第 737 号、1985 年 11 月。
- (2001). 「環境運動と環境政策」、長谷川編 『環境運動と政策のダイナミズム』(講座 環境社会学第 4 巻) 有斐閣、pp.1-34.
- Hayami, Yujiro and Vernon W. Ruttan (1971), *Agricultural Development: An International Perspective*. Baltimore: Johns Hopkins Press.
- Haynes, Jeff (1997). *Democracy and Civil Society in the Third World: Politics and New Political Movements*. Cambridge: Polity Press.
- Hirschman, Albert O.(1970). *Exit, Voice and Loyalty: Responses to Decline in Firms, Organizations, and States*. Cambridge: Harvard University Press.
- Hogg, Michael A. and Dominic Abrams (1988). *Social Identifications*. London and New York: Routledge.
- Jenkins, Craig J. and Charles Perrow (1977). "Insurgency of the powerless: Farm worker movements (1946-1972)," *American Sociological Review*. vol.42, no.2: 249-268.
- 梶田孝道 (1985). 「新しい社会運動—A・トゥレーヌの問題提示を受けて—」、『思想』、No.730、pp.211-237。
- Karnoe, Peter (1997). "Only in Social Action!" *American Behavioral Scientist*. vol.40, no.4 (Feb.1997): 419-430.
- Kitschelt, Herbert P. (1986). "Political opportunity structures and political protest: anti-nuclear movements in four democracies," *British Journal of Political Science*. vol.16: 57-85.
- Koopmans, Ruud (1993). "The Dynamics of Protest Waves: West Germany, 1965 to 1989," *American Sociological Review*, Vol. 58, No. 5: 637-658.
- Klandermans, Bert (1984). "Mobilization and participation: Social-psychological expansions of resource mobilization theory," *American Sociological Review*, Vol.49, Issue 5: 583-600.
- Klandermans, Bert and Marga de Weerd (2000). "Group identification and political protest," in Sheldon Stryker, Timothy J.Owens, and Robert W. White (eds.), *Self, Identity, and Social Movements*. Mineapolis, London: University of Minnesota Press, pp.68-90.
- McAdam, Doug (1999). *Political process and the development of Balck insurgency*,

- 1930-1970 (Second edition). Chicago and London: The University of Chicago Press.
- McAdam, Doug, Sidney Tarrow, and Charles Tilly (1997). "Toward an integrated perspective on social movements and revolution," in Mark Irving Lichbach and Alan S. Zuckerman (eds.), *Comparative Politics: Rationality, Culture, and Structure*. New York: Cambridge University Press, pp.142-173.
- McCarthy, John D. and Mayer N. Zald (1973). *The Trend of Social Movements in America: Professionalization and Resource Mobilization*. Morristown: General Learning Press.
- Mamdani, Mahmood, Thandika Mkandawire, and E. Wamba-dia-Wamba (1993). "Social movements and democracy in Africa," in Ponna Wignaraja (ed.), *New Social Movements in the South: Empowering the People*. London and New Jersey: Zed Books, pp.101-118.
- March, James G., Johan P. Olsen (1984). "The new institutionalism: Organizational factors in political life," *The American Political Science Review*, vol.78 iss.3: 734-749.
- アルベルト・メルッチ (山之内靖、貴堂嘉之、宮崎かすみ訳) (1997). 『現在に生きる遊牧民 (ノマド) -新しい公共空間の創出に向けて』 岩波書店。
- Meyer, John W. and Brian Rowan (1991). "Institutionalized organizations: Formal structure as myth and ceremony," in Walter W. Powell & Paul J. DiMaggio (eds.), *The New Institutionalism in Organizational Analysis*. Chicago and London: The University of Chicago Press, pp. 41-62. (Original; *American Journal of Sociology*, 83-2, Sep.1977).
- Mueller, Carol McClurg (1992). "Building social movement theory," in Aldon D. Morris & Carol McClurg Mueller (eds.), *Frontiers in Social Movement Theory*. New Heaven & London: Yale University Press, pp.3-25.
- North, Douglass C. (1990). *Institutions, Institutional Change and Economic Performance*. Cambridge: Cambridge University Press.
- (1993). "Institutional change: A framework of analysis," S. Sjostrand (ed.), *Institutional Change: Theory and Empirical Findings*. New York and London: M.E.Sharpe, pp.35-46.
- (1998). "Economic performance through time," in Mary C. Brinton and Victor Nee (eds.), *The New Institutionalism in Sociology*. Stanford: Stanford University Press, pp.247-257.
- Oberschall, Anthony and Hyojoung Kim, "Identity and action," *Mobilization: An International Journal*. Vol.1, No.1: 63-85.
- Offe, Claus (1985). "New social movements: Challenging the boundaries of institutional

- politics," *Social Research*. 52(4): 817-868.
- Oliver, Pamela (1984). "If you don't do it, nobody else will': active and token contributors to local collective action," *American Sociological Review*. vol.49: 601-610.
- Olson, Mancur (1965). *The Logic of Collective Action: Public Goods and the Theory of Groups*. Cambridge: Harvard University Press.
- Oliver, Christine (1991). "Strategic responses to institutional processes," *The Academy of Management Review*. vol.16, issue 1: 145-179.
- Peters, Guy B. (1999). *Institutional Theory in Political Science: The 'New Institutionalism'*. London: Continuum.
- Powell, Walter W. (1991). "Expanding the scope of institutional analysis," in Walter W. Powell & Paul J. DiMaggio (eds.), *The New Institutionalism in Organizational Analysis*. Chicago and London: The University of Chicago Press, pp. 183-203.
- Rao, Hayagreeva (1998). "Caveat emptor: The construction of nonprofit consumer watchdog," *American Journal of Sociology*, vol.103, iss.4:912-961.
- Rutherford, Malcolm (1994). *Institutions in Economics: The Old and the New Institutionalism*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Scott, W. Richard (2001). *Institutions and Organizations*. (Second edition), Thousand Oaks, London, and New Delhi: Sage Publications.
- Selznick, Philip (1984). *Leadership in Administration: A Sociological Interpretation*. Berkeley, Los Angeles, London: University of California Press.
- Sewell, William H. Jr. (1992). "A theory of structure: Duality, agency, and transformation," *American Journal of Sociology*. vol.98, issue 1: 1-29.
- Sjostrand, Sven-Erik (1993). "On institutional thought in the social and economic sciences," S. Sjostrand (ed.), *Institutional Change: Theory and Empirical Findings*. New York and London: M.E.Sharpe, pp.3-31.
- (1995). "Toward a theory of institutional change," in John Groenewegen, Christos Pitelis, Sven-Erik Sjostrand (eds.), *On Economic Institutions: Theory and Applications*. Aldershot and Brookfield: Edward Elgar Publishing, pp.19-44.
- Snow, David A, Burke Rochford, Jr., Steven K. Worden, and Robert D. Benford, "Frame alignment process, micromobilization, and movement participation," *American Sociological Review*. Vol.51, Issue 4: 464-481.
- Smelser 1962
- Sterns, Patricia Aust & Thomas Reardon (2002). "Determinants and effects of institutional change: A case study of dry bean grades and standards," *Journal of Economic Issues*. vol.36, no.1: 1-16.

- Stryker, Sheldon (2000). "Identity competition: Key to differential social movement participation?" in Sheldon Stryker, Timothy J. Owens and Robert W. White (eds.), *Self, Identity, and Social Movements*. Minneapolis and London: University of Minnesota Press, pp. 21-40.
- Tarrow, Sidney (1996). "States and opportunities: The political structuring of social movements," in Doug McAdam and John D. McCarthy et al. (eds.), *Comparative Perspectives on Social Movements: Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framings*. Cambridge: Cambridge University Press, pp.41-61.
- (1998). *Power in Movement: Social Movements and Contentious Politics*. Second Edition, Cambridge: Cambridge University Press.
- Tilly, Charles (1978). *From Mobilization to Revolution*. Reading: Addison-Wesley Publishing.
- アラン・トゥレーヌ (佐藤幸男訳) (1989). 『断裂社会－第三世界の新しい民衆運動』新評論。
- Ralph H. Turner, Lewis M. Killian (eds.) (1957), *Collective Behavior*. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall.
- Vandenberg, Paul (2002), "North's institutionalism and the prospect of combining theoretical approaches," *Cambridge Journal of Economics*, vol. 26: 217-235.
- Wignaraja, Ponna (1993). "Rethinking development and democracy," in Ponna Wignaraja (ed.), *New Social Movements in the South: Empowering the People*. London and New Jersey: Zed Books, pp.4-35.
- Williamson, Oliver E. (1975). *Markets and Hierarchies: Analysis and Antitrust Implications*. New York: Free Press.
- (2003). "Organization theory – Lessons for the lens of contract/governance," (Chapter 4 of papers for the lectures in 2003 Spring Semester of University of California at Berkeley).
- Zucker, Lynne G. & Michael R. Darby (1997). "Individual action and the demand for institutions: Star scientists and institutional transformation," *American Behavioral Scientist*. vol.40, no.4: 502-513.